

令和2年度 教育委員会 第1回定例会 議案

1 日 時 令和2年4月2日(木) 午後2時45分

2 場 所 教育委員会議室

3 日 程

(1) 開 会

(2) 報告事項

(3) 閉 会

第 1 回定例会 報告事項

番号	項 目	Page
1	令和 2 年度教育委員会事務局所属長等報告	1
2	「賀茂地域教育振興方針の一部改訂」について	3
3	広報プロジェクトチームによる活動～若手がやらねば誰がやる～	4
4	県への損害賠償請求事件訴訟の終結	5
配布 報告	静岡県市町立学校職員の退職手当に関する規則の一部改正	6
	平成 31 年度ひとり 1 改革運動年間表彰	7
	監査結果に関する報告	8
	令和 2 年度静岡県公立高等学校入学者選抜結果の概要	10

報告事項 1
(件 名)

令和2年4月2日

令和2年度教育委員会事務局所属長等報告

(教育総務課)

年度当初にあたり、教育委員会事務局所属長等より報告する。

令和2年度教育委員会所属長名簿

令和2年4月2日

No.	所 属 名	職 名	氏 名	前 所 属 ・ 職 名
1		教 育 長	木 苗 直 秀 <small>き な え な お ひ で</small>	(静岡県立大学学長)
2		教 育 部 長	長 澤 由 哉 <small>な が さ わ よ し や</small>	部理事 (総括担当)
3		教 育 監	松 井 和 子 <small>ま つ い か ず こ</small>	(清水西高等学校長)
4		参 事 (総括担当)	伏 見 光 博 <small>ふ し み み つ ひ ろ</small>	文化・観光部総合教育局長
5		参 事 (学校改革担当)	塩 崎 克 幸 <small>し お ざ き か つ ゆ き</small>	総合教育センター所長
6	教 育 総 務 課	課 長	堀 口 敬 記 <small>ほ り ぐ ち た か の り</small>	(くらし・環境部環境局参事)
7	教 育 政 策 課	課 長	中 山 雄 二 <small>な か や ま ゆ う じ</small>	(義務教育課長代理)
8	財 務 課	課 長	青 木 康 行 <small>あ お き や す ゆ き</small>	文化・観光部経理課長
9	教 育 厚 生 課	課 長	本 村 勉 <small>も と む ら つ と む</small>	沼津東高等学校事務長
10	教 育 施 設 課	課 長	松 下 明 生 <small>ま つ し た あ き お</small>	交通基盤部営繕工事課長
11	義 務 教 育 課	参 事 兼 課 長	宮 崎 文 秀 <small>み や ざ き ふ み ひ で</small>	(西伊豆町教育長)
12	高 校 教 育 課	課 長	本 多 伸 治 <small>ほ ん だ し ん じ</small>	経営管理部市町行財政課参事 (伊豆市副市長)
13	特 別 支 援 教 育 課	課 長	伊 賀 匡 <small>い が た だ し</small>	(沼津視覚特別支援学校長)
14	健 康 体 育 課	課 長	近 藤 浩 通 <small>こ ん とう ひ ろ み ち</small>	交通基盤部営繕企画課長
15	社 会 教 育 課	課 長	山 下 英 作 <small>や ま し た え い さ く</small>	(総合政策課長代理)
16	静 東 教 育 事 務 所	所 長	西 山 義 則 <small>に し や ま よ し の り</small>	(義務教育課人事監)
17	静 西 教 育 事 務 所	所 長	青 嶋 幸 弘 <small>あ お し ま ゆ き ひ ろ</small>	総合教育センター部長
18	中 央 図 書 館	館 長	三 科 守 <small>み し な ま も る</small>	(浜松西高等学校長)
19	総 合 教 育 セ ン タ ー	所 長	小 関 雅 司 <small>お ぜ き ま さ し</small>	高校教育課指導監
20	焼 津 青 少 年 の 家	所 長	赤 石 達 彦 <small>あ か い し た つ ひ こ</small>	(理事兼社会教育課長)
21	観 音 山 少 年 自 然 の 家	所 長	鈴 木 由 佳 子 <small>す ず き ゆ か こ</small>	(磐田市立豊田南小学校長)

※前所属・職名欄の()書きは、令和2年度人事異動以前の異動による前所属・職名

「賀茂地域教育振興方針」の一部改訂について

(教育政策課、賀茂地域局)

1 概要

賀茂地域広域連携会議「教育委員会の共同設置専門部会」(賀茂1市5町教育委員会及び県教育委員会で構成)では、「賀茂地域教育振興方針(H28～R1)」を策定し、各市町及び県が連携して、教育の質を維持向上させるための取組を進めてきた。

取組期間が今年度で終了することに伴い、現方針の進捗状況と成果の評価を行い、来年度以降の重点取組を記載した一部改訂を3月16日の第24回賀茂地域広域連携会議で行う予定であったが、新型コロナウイルスの状況を勘案し、会議を延期したため、書面により一部改定を決議した。

2 令和2年度～5年度の方針・重点取組

賀茂地域における教育については、『賀茂の子』を育てる」という理念を共有し、関係者が一丸となって取り組み進めていく。

重点取組	主な取組項目
①幼児教育	幼児教育アドバイザー巡回、研修の充実、家庭・地域との連携強化
②小・中学校	研修・ICT活用、地域学(賀茂版 Dream 授業等)、学校統合の研究
③高校	地域の関係者が連携した高校の魅力化、教職員の資質向上、ICT活用
④大学・学生	フィールドワーク等の推進、観光コースとの連携、賀茂キャンパス活用
⑤社会教育	社会教育に係る研究(施設間連携、FM等)、社会人コースの支援

(賀茂地域広域連携会議構成員等のコメント)

下田市長	ふるさとに誇りと愛情を持って地域の発展に貢献できる人材の育成について関係団体が連携し、具体的な取組を推進することが重要。魅力ある地域づくりを車の両輪として進めていくことが必要。
東伊豆町長	現方針による取組の方向性が定まってきた中、それらが重点化され次期方針案に計画されており、今後、これらの施策を連携し推進していくことが大事である。
河津町長	地域が一体となり、生まれ育った地域が大好きで、地域のためになりたいという「賀茂の子」を育む教育振興方針が示せた。
南伊豆町長	改訂を経て、さらに充実した内容となった。本方針を基に、今後、効果的な施策が推進されることを期待する。
松崎町長	各市町の意見を集約して、より充実した本方針を基に、賀茂地域の教育が推進されることを期待する。
西伊豆町長	方針に沿って市町がさらに連携して取組むべき。3大学との協定により、様々な取組が行なわれ、外からの発信により自分たちの地域の良さを知り、残りたい、戻ってきたいという子ども達が増えることを望む。
森県議 (参与)	大学・地元が連携して、地域の教育レベルの向上のための準備が整ったことを嬉しく思う。この機会を有効に活用して、さらなる教育推進を期待する。

広報プロジェクトチームによる活動 ～若手がやらねば誰がやる～

(教育政策課)

1 要旨

教育委員会における効果的な広報活動を実践し、「社会総がかりでの教育」「社会に開かれた学校」の実現に寄与するため、課の枠を超えた若手職員によるプロジェクトチームを編成し、学校も巻き込んで話題性のある広報を行う。

2 プロジェクトチームの概要 (R1)

教育委員会9課12人の若手職員で構成し、学校や生徒の協力を得ながら取組を推進
＜今年度の主な取組＞

- ・過疎地域の高等学校 PR 支援
- ・教育委員会事務局職員クレドの作成
- ・ラグビーワールドカップのレガシー動画の作成
- ・広報紙「E ジャーナルしずおか」の魅力化
- ・「教員の魅力化」の広報
- ・特別支援学校の PR
- ・実学系高校の広報支援

3 取組状況 (R1)

- (1) 過疎地域の高等学校 PR 支援
 - ・伊豆総合高校土肥分校、浜松湖北高校佐久間分校の生徒と協力し、それぞれの学校広報動画を作成し、近隣中学校や駿河湾フェリー等で配信
 - ・賀茂地域の高校に取材し、広報紙 (E ジャーナル) にて特集記事を作成
 - (2) 「教員の魅力」の広報
 - ・教員への取材を基に、「教員の魅力」をテーマとした広報動画やリーフレットを作成。
 - (3) 教育委員会事務局クレドの作成
 - ・「職員一人ひとりの仕事の基準や信条・価値観等の具体的な行動指針」となるクレドを作成し職員へ周知
 - (4) 特別支援学校の PR
 - ・特別支援学校の児童生徒協力のもと、オリンピック・パラリンピック応援動画を作成し、SNS や庁内で配信する他、プラサヴェルデや修善寺駅等で配信していく予定
 - (5) ラグビーワールドカップレガシー動画の作成
 - ・学校でのラグビー教室等の写真や動画データを基に広報動画を作成し、SNS や庁内で配信
 - (6) 実学系高校の広報支援
 - ・実学チャレンジフェスタにて広報ブースを設置し、スクリーンに当日の様子をリアルタイムで紹介したほか、記念写真を挿入した広報紙をその場で配布
 - (7) 広報紙「E ジャーナルしずおか」の魅力化
 - ・学校紹介記事を連載し、読み手側も広報ツールとして活用できるように工夫
 - ・一面をインパクトあるレイアウトで掲載。
 - ・定番の青色での発行から、緑や赤、白黒でも発行し、読者アンケートを実施
- 4 今後の取組
- ・学校の魅力化支援
 - ・インターハイ陸上競技大会 PR 等

県への損害賠償請求事件訴訟の終結

特別支援教育課

(要旨)

静岡県を被告として提訴された以下の損害賠償請求事件について、令和2年3月4日、静岡地方裁判所沼津支部において、原告の請求を棄却する判決があった。原告は控訴期間内(判決書の送達を受けた日から2週間以内)に控訴しなかったことから、控訴期限の令和2年3月19日の経過により当該判決が確定した。これにより、当該訴訟は終結した。

1 提訴

提訴日 : 平成30年10月18日 (平成30年11月6日訴状送達)
事件番号 : 平成30年(ワ)第436号

2 当事者

- (1) 原告 秋山 京二 (県立沼津視覚特別支援学校 高等部保健理療科第2学年 53歳)
訴訟代理人弁護士 原田健一
- (2) 被告 静岡県知事 川勝 平太

3 請求の趣旨

- (1) 被告は、原告に対し、金300万円及びこれに対する訴状送達日の翌日から支払い済みまで年5分の割合による金員を支払え。
- (2) 訴訟費用は被告の負担とする。

4 請求の原因(要旨)

平成27年8月、訴外生徒Aが、県立沼津視覚特別支援学校(以下「学校」という。)に対し、原告から暴力を振るわれた旨の虚偽の事実を申告した。その際、学校は、訴外生徒Aの主張について十分に検討しないまま、訴外生徒Aの発言を鵜呑みにして、原告に対して注意をした。

その後、原告は、学校に事実を調査するように求めたにもかかわらず、長期間調査はなされなかった。また、学校は、突如としてクラス分けを行い、原告と訴外生徒Aを別クラスにした。

かかる措置により、原告は学校に対して通学することが出来なくなり、その結果、現在も通学が出来ず、進級が出来ないという、筆舌に尽くしがたい損害を被った。

5 判決

- (1) 主文
原告の請求を棄却する。訴訟費用は原告の負担とする。
- (2) 理由(要旨)
学校の措置は、いずれも違法行為ないし安全配慮義務違反と評価できない。

静岡県市町立学校職員の退職手当に関する規則の一部改正

(教育総務課)

専決処理により、静岡県市町立学校職員の退職手当に関する規則を別紙のとおり改正した。

◎ 改正理由

(規則4条関係)

- 地方公務員法等の一部改正に伴い、静岡県職員の退職手当に関する条例が改正され、所要の改正を行ったもの。

(規則5条関係)

- 県費負担教職員の職員履歴情報の電子化に伴い、履歴書の様式の限定を廃止したもの。

◎ 改正にあたっての考え方

- 市町立学校職員以外の職員の退職手当については、人事委員会規則でその取扱いが定められていることから、今般の教育委員会規則の改正は、市町立学校職員についても同様の取扱いとするため、人事委員会規則の改正と連動させて行ったもの。

平成 31 年度ひとり 1 改革運動 年間表彰

(教育総務課)

全庁で実施している「ひとり 1 改革運動」について、平成 31 年度教育委員会は以下の 9 件について、顕著な改革成果のあった取組として表彰を実施した。

知事表彰 (4 件)

各所属から推薦のあった新規改善提案の中から優秀な提案を推薦

所属名	改善提案	内容
義務教育課 人事班	県人事給与システムを活用した小中学校教職員の履歴書事務の効率化	履歴情報を県人事給与システムの履歴データに移行し、発令等をシステムに登録し、電子化された履歴情報を履歴書として取扱う
教育総務課 給与班	ルーティンワークをスクラップ!! ～学校の働き方改革～	学校の声をできる限り反映させ、業務時間縮減を目指した改善リストを作成し、学校へ示した
教育政策課 ICT 教育推進班	web 会議システムを利用して打ち合わせを効率化	複数人で出張する業務や遠隔地での会議の負担軽減のため Web 会議システムを活用
教育政策課 政策調整班	年間新規改善提案 33 件	職場環境改善取組 16 件、働き方改革取組 10 件、RPA 導入等による業務改善取組 7 件

教育長表彰 (5 件)

(1) 優秀提案賞 知事表彰に推薦した改善提案以外で、表彰に相応しい提案を表彰

所属名	改善提案	内容
教育政策課 政策推進班	広報プロジェクトチームによる学校の魅力化	過疎地域の高等学校の PR、教員の魅力化への広報教育委員会クレドの作成等
財務課 管財・助成班	85 万ファイルを使い倒す! (大量のファイルを ICT によって有効活用)	共有 HDD に大量 (85 万以上) のファイルから検索するのに 10 分程度かかっていたが、簡易プログラムによりエクセルでの検索 10 秒程度に短縮
福利課 住宅・厚生班	児童手当支給明細書 (個人配付用) の配布見直し	児童手当至急明細書 (個人分) の受給者への配付を取りやめ、事務処理を負担軽減
総合教育センター 生涯学習企画課企画班	研修申込データベースの導入で win-win	NE S ネットワーク上に「研修申込 DB」を設けることにより、DB 上で希望研修の申込が可能となり、自身が申し込み状況の確認が可能となった

(2) チーム賞 チーム一丸となって改革に挑戦した職員を教育長が表彰

所属名	内容
教育政策課 政策推進班	教育委員会広報紙「E ジャーナルしずおか」の魅力化等

監査結果に関する報告

(教育総務課)

令和元年度第 5 回の監査結果

1 指摘等事項の概要

令和 2 年 3 月 27 日に、今年度、第 5 回目の監査結果の報告があった。
 今回は、令和元年 12 月 20 日から令和 2 年 3 月 11 日に実施した県立学校等 18 所属の定期監査についての報告で、教育委員会については、7 件の注意が付された。
 また、同期間に随時監査が 3 所属で実施され、2 件の指摘が付された。
 さらに、同期間に財政的援助団体への監査が 1 箇所で行われたが、指摘等が付される団体はなかった。

(1) 定期監査

＜注意 7 件＞

監査箇所	指 摘 等 事 項	
下田 高等学校	件 名	建設工事の不適切な設計
	内 容	平成 30 年度に実施した目隠し用フェンス設置工事において、風荷重による転倒に対する安全性を満足しない不適切な設計を行い施工した。
"	件 名	非常勤職員の年次有給休暇付与日数の誤り
	内 容	令和元年度の非常勤職員の年次有給休暇について、繰越日数の付与に誤りがあった。
松崎 高等学校	件 名	建設工事の不適切な施工
	内 容	平成 30 年度から令和元年度にかけて実施したネットフェンス設置工事において、風荷重による転倒に対する安全性を満足しない不適切な施工が確認された。
静岡農業 高等学校	件 名	現金の不適切な管理
	内 容	部活動の農産物売上金について、担当教諭が学校徴収金等事務処理基準の規定に従わず、1 か月以上に渡り事務機の引き出しに保管していたところ、盗難の被害に遭った。
静岡商業 高等学校	件 名	建設工事の不適切な施工
	内 容	平成 30 年度から令和元年度にかけて実施したネットフェンス設置工事において、受注者から提出された施工承認図に対して、既設基礎コンクリートの基礎構造に係る協議を行っておらず、その一部において風荷重による転倒に対する安全性を満足しない不適切な施工を行った。

監査箇所	指 摘 等 事 項	
清流館 高等学校	件 名	不適切な管理による郵券類（レターパック）の亡失
	内 容	平成 30 年 10 月、不適切に管理していたレターパック 45 枚のうち 37 枚を亡失していることが判明した。
浜松西 高等学校	件 名	大学受験用の調査書の誤作成
	内 容	平成 30 年度に大学受験用に作成した調査書において、一部の生徒の物理の評定を誤って記入していた。

(2) 随時監査

<指摘 2 件>

監査箇所	指 摘 等 事 項	
東部の県立 高等学校、 校名は非公 表	件 名	わいせつ行為の発生
	内 容	東部の県立高等学校の教諭は、女子生徒 1 人に対し、平成 28 年 11 月から平成 30 年 3 月の間、ホテル等において、複数回わいせつ行為を行った。
東部の県立 高等学校、 校名は非公 表	件 名	児童買春・児童ポルノ禁止法違反行為及び盗撮行為の発生
	内 容	東部の県立高等学校の教諭は、令和元年 6 月に SNS を利用して児童ポルノ（画像）を公然陳列したとして、令和元年 11 月に、児童買春・児童ポルノ禁止法違反の容疑で逮捕された。 また、教育委員会の事情聴取に対し、令和元年 10 月に県内で 2 回盗撮を行ったことを認めた。

2 今後の対応

今回の監査結果に対する措置状況について、令和 2 年 6 月 26 日までに監査委員へ報告する。

令和2年度静岡県公立高等学校入学者選抜結果の概要

(高校教育課)

1 入学者選抜の概要 (() 内の数字は平成31年度選抜のデータを示す。)

(1) 全日制の課程

項目	一般選抜	特別選抜					再募集	合計
		海外帰国生徒	外国人生徒	長期欠席生徒	連携型	県外生徒特色		
実施校数 ※1	93 (93)	15 (15)	9 (9)	3 (3)	3 (3)	1 (1)	53 (43)	
実施科教 ※2	161 (161)	16 (16)	12 (12)	3 (3)	3 (3)	1 (1)	70 (54)	
募集定員	※3 20,140 (20,683)	8+若干名 (8+若干名)	若干名 (若干名)	若干名 (若干名)	定めない (定めない)	8 (8)	1,297 (683)	※4 20,460 (21,020)
志願者数	20,422 (21,560)	16 (15)	26 (21)	21 (26)	83 (97)	3 (8)	100 (65)	20,671 (21,792)
受検者数	20,296 (21,394)	16 (14)	26 (21)	21 (25)	83 (97)	3 (8)	98 (65)	20,543 (21,624)
合格者数 ※5	18,965 (20,115)	13 (13)	19 (16)	20 (19)	83 (96)	2 (6)	85 (59)	19,187 (20,324)
実質倍率	1.07 (1.06)	1.23 (1.08)	1.37 (1.31)	1.05 (1.32)	1.00 (1.01)	1.50 (1.33)	1.15 (1.10)	

※1 分校等を1校と数える。

※2 小学科教数を示す。くくり募集は1科として数える。

※3 一般選抜の募集定員には、特別選抜の募集定員を含む。

※4 募集定員の合計は、定員策定時(R元年11月発表)のものであり、併設する中等部からの入学予定者数を含む。

※5 併設する中等部からの入学予定者数(沼津市立沼津62人、清水南102人、浜松西156人)を含まない。中等部からの入学予定者を含むと、合格者数合計は19,507人となる。

(2) 学年制による定時制の課程

項目	一般選抜	再募集	合計
実施校数	17 (17)	16 (17)	
実施科教	17 (17)	16 (17)	
募集定員	680 (680)	381 (388)	※ 680 (680)
志願者数	338 (311)	29 (28)	367 (339)
受検者数	336 (307)	27 (26)	363 (333)
合格者数	301 (292)	21 (20)	322 (312)
実質倍率	1.12 (1.05)	1.29 (1.30)	

※募集定員の合計は、定員策定時(R元年11月発表)のものである。

(3) 単位制による定時制の課程

項目	春季		秋季	合計
	一般選抜	再募集		
実施校数	3 (3)	1 (2)	3 (3)	
実施科教	3 (3)	1 (2)	3 (3)	
募集定員	576 (576)	31 (38)	64 (64)	※ 640 (640)
志願者数	597 (574)	2 (12)	— (103)	— (689)
受検者数	588 (565)	2 (10)	— (102)	— (632)
合格者数	549 (541)	2 (9)	— (78)	— (599)
実質倍率	1.07 (1.04)	1.00 (1.11)	— (1.31)	

※募集定員の合計は、定員策定時(R元年11月発表)のものである。

2 学力検査の結果

平均点（50点満点）及び標準偏差（（ ）内の数字は平成31年度選抜のデータである。）

教科	平均点	標準偏差
国語	33.66 (34.40)	7.34 (6.11)
数学	25.39 (26.71)	9.07 (10.47)
英語	27.47 (26.59)	10.68 (9.96)
社会	30.67 (27.76)	8.92 (9.28)
理科	28.41 (26.66)	9.07 (9.35)
合計(参考)	145.60(142.12)	
実施校数	93校 (93校)	

※分校等を1校と数える。
全日制の課程のみ。

3 実質倍率の高かった学校の状況

	学校名	科名	募集定員	受検者数	合格者数	実質倍率
1	磐田南	理数	40	83	41	2.02
2	沼津東	理数	40	74	40	1.85
3	菟山	理数	40	69	41	1.68
4	科学技術	理工	40	66	41	1.61
5	浜松工業	電気	40	63	41	1.54
	浜松工業	情報技術	40	63	41	

4 定員割れした学校の状況

	学校名	科名	募集定員	受検者数	合格者数	再募集合格者	定員割れ
1	静岡西	普通	200	140	138	7	55
2	池新田	普通	160	111	110	0	50
3	清水西	普通	240	187	187	4	49
	新居	普通	200	151	149	2	
5	島田商業	商業	200	159	159	1	40
	天竜	総合	160	122	120	0	